進捗状況報告シート

（2010年度・大学）

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

Ⅰ．評価項目・要素と担当部局

対象部局	先端社会研究所
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理
	理念・目的との適合性
	学術の進展や社会の要請との適合性
	(KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

Ⅱ．自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
１．研究所の活動理念としてresearchとempowerment、実践目標としてNetworking, Education、活動事業としてarchive, publication, workshop, S-cubeをそれぞれ置く。	→運営委員会による研究所の活動計画・実施状況・成果発表に関する評価の実施。	B
２．学部・部局横断的な研究・教育体制のもとで、「共生／移動」「景観／空間」「セキュリティ／排除」を三つの柱として関学らしい学際的な研究業績の発表を目指す。	→リサーチコミティをはじめ複数学部・研究科に所属する教員による研究体制・グループの構成状況の内訳。「ミッションステートメント」に適った研究の実施状況。	C
３．海外との学術ネットワークの構築に基づき、「共生／移動」「景観／空間」「セキュリティ／排除」に関する国際的な研究組織・体制を確立する。	→海外との研究教育機関との協定／協力関係の状況（実施件数）。研究者の海外からの受入れと海外への送り出しの実施状況（実績数）。	C
４．国内の関連する諸機関・組織との協同体制の確立に基づき、「共生／移動」「景観／空間」「セキュリティ／排除」に関する学際的かつ実践的な研究体制を確立する。	→大学外の諸機関・組織との学術交流・研究活動の状況（研究会・交流会の実施回数等）。ワークショップやSキューブの開催・実施状況（実施回数、共催相手数、等）。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》　※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目4.0.1	（現状説明） 研究所に所長（1名）、副所長（1名）、運営委員（6名）、研究員（専任3名、兼任27名）及びリサーチ・アシスタント（1名）を置き、研究活動及び研究所運営にあたっている。本学において専任の研究員を置いている研究所は本研究所のみであり、また、運営委員及びリサーチコミッティ委員については複数学部の専任教員により構成しており、全学的な研究体制を構築している。 また、海外の研究教育機関との連携として「戦争が生み出す社会」をテーマに共同研究を実施するとともに、以下の通り国際学会、国際ワークショップへの参加、及び国際シンポジウムを主催した。

		2008年度	2009年度
派遣	国際学会	ー	4名
	国際ワークショップ	ー	5名
招聘	国際シンポジウム	3名	ー

※内1名は大学院GP関係

☆	小項目4.0.2	（現状説明） 教育研究組織の適切性については、隔月に定例開催される運営委員会において、研究所の活動計画・実施状況・成果発表に関する評価に併せて検証を行うとともに、3ヶ月に1度の研究推進社会連携機構評議員会への活動報告によって、実施状況の評価の観点からその適切性を検証している。
☆	その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価　（1）】効果が上がっている事項

	小項目4.0.1	
☆	小項目4.0.2	
	その他	

【次年度に向けた方策（1）】伸長させるための方策

	小項目4.0.1	
☆	小項目4.0.2	
	その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価　（2）】改善すべき事項

	小項目4.0.1	３つのプロジェクトにおける公募研究グループを組織するにあたっては、適切な時期に全学的に十分な情報を周知し、より高い研究成果をあげられるよう工夫する必要がある。
☆	小項目4.0.2	
	その他	

【次年度に向けた方策（2）】改善方策

	小項目4.0.1	リサーチコミッティ及び各プロジェクトの指定研究グループにおいて、予算申請時期までに次年度の研究計画概要及び予算計画案を策定し、予算内示に併せて研究計画の確定及び早期の情報公開を行うことで、公募研究への応募が計画的に行えるよう準備する。
☆	小項目4.0.2	
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆	その他 （自由記述）	

Ⅲ．学内第三者評価

＜評価推進委員会からの評価＞（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

○全学的な研究体制は重要ですが、必要に応じて外部の資源を積極的に利用することも考えられるのではないでしょうか。
○改善の方策に関する記述は大切なことを指摘しているところでありますが、研究所の研究組織が理念・目的に適うものであるかという観点からすると、やや技術的にすぎる印象があります。

Ⅳ．学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

☆ なし

Ⅴ．本項目の評価指標

＜全学的な指標＞

＜個別的な指標＞